

## 取り組みが本格化するAIタクシー

### ◆企業の本格参入が相次ぐAI（人工知能）を活用したタクシーサービス

IT関連事業者、自動車メーカー、タクシー事業者が実証実験を繰り返してきたAI（人工知能）を活用した需要予測の取り組みが本格化している。

2018年2月からNTTドコモが提供を開始した「AIタクシー」は、30分先までのタクシー乗車需要の予測を500m四方のエリアごとに10分単位でタクシーに配信する。乗務員が、その情報に基づいてタクシーを「流し」運転すると、乗客が見つかる可能性が高くなり、実車率や売り上げを向上させることができる。東京都内で1,350台、名古屋市の1,150台対象に順次、運行が開始される。

このほかにも、トヨタ自動車、DeNAもAIを活用したタクシー向けの需要予測サービス事業への参入を表明している。

#### 【AIを活用したタクシー事業の事例】

名称	内容	企業	展開時期・エリア
AIタクシー	事業者向け。NTTドコモの携帯電話ネットワークによる人口動態などのデータを活用。30分後までの需要予測をエリアごとに10分単位で配信。	NTTドコモ、東京無線	18年2月 東京都23区から
配車支援システム	事業者向け。KDDIのスマホユーザーの位置情報、タクシーの運行実績などのデータを分析して30分単位で需要を予測。18年度中に実用化を目指す。	トヨタ自動車 JapanTax、KDDI、アクセンチュア	18年2月 東京都内で 試験運行開始
タクベル	事業者と利用者向け。乗務員には需要予測による最適な「流し走行ルート」を、利用者には空車をリアルタイムで把握できるアプリを提供。	DeNA、 神奈川タクシー協会	18年4月 神奈川県で開始

(出所)プレスリリース、新聞記事などの公開情報を基に旭リサーチセンター作成

### ◆AIを活用したタクシーの実用化の先にあるものは

需要予測のためにAIで分析するのは、各エリアの人口統計、タクシーの運行状況、気象データ、周辺施設のデータなどだ。実証実験では、乗車率の中率は9割以上で、平常時とAIサービス利用時の乗車数や売上を比較したところ、AIの方が上回っていたという。ベテランドライバーの経験や勘に頼る必要はなくなり、AIのサポートを受ければ新人乗務員でも売上を稼げて、収入が安定するため、労働力の確保にもつながると期待されている。

訪日外国人の急増や2020年の東京オリンピック開催に向け、移動需要はさらに高まると予測されている。AIタクシーのほか、自動運転や無人運転など、新たなモビリティ社会に向けた動向が注目される。

【新井佳美】